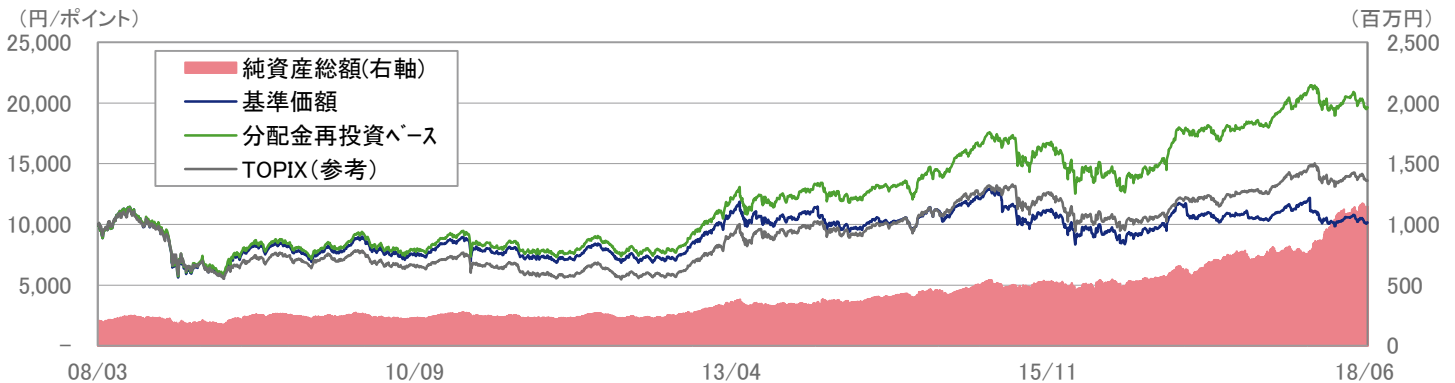


■ 基準価額・純資産総額の設定来推移



※1 分配金再投資ベースは分配金(課税前)を再投資したものと計算しており、分配金があった場合は実際の基準価額とは異なります。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに値は異なります。
※2 TOPIX(参考)の設定来推移は、設定日を10,000として指数化したものです。
※3 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 設定来の運用実績

	基準価額 (分配金再投資)		(参考指数) TOPIX		差異 ①-② (%)
	(円)	①騰落率(%)	(ポイント)	②騰落率(%)	
当月末	19,651	-	1,730.89	-	-
過去1カ月	19,854	-1.02	1,747.45	-0.95	-0.08
過去3カ月	19,720	-0.35	1,716.30	0.85	-1.20
過去6カ月	20,662	-4.89	1,817.56	-4.77	-0.13
過去1年	18,198	7.98	1,611.90	7.38	0.60
過去3年	16,949	15.94	1,630.40	6.16	9.78
設定日来	10,000	96.51	1,271.15	36.17	60.34

※1 基準価額騰落率(分配金再投資)は、当ファンドの決算時に収益の分配金があった場合に、その分配金(課税前)を再投資した場合の騰落率です。
また、実際のファンドにおいては、課税の条件によってお客様ごとに騰落率は異なります。
※2 当ファンドはベンチマークを設定していませんが、参考指数としてTOPIXを掲載しています。
※3 基準価額騰落率は過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

■ 運用資産構成比率

ファンド	比率(%)
国内株式現物	98.9
東証1部	98.9
東証2部	-
ジャスダック	-
その他	-
国内株式先物	-
短期資産等	1.1
合計	100.0

※1 比率は純資産総額対比です。
※2 短期資産等には、コール、CD、CP、現先、未収金、未払金等が含まれます。

■ 分配実績

決算年月日	分配金 (課税前) (円)
2018/04/10	50
2018/01/10	1,110
2017/10/10	50
2017/07/10	540
2017/04/10	50
2017/01/10	860
設定来合計	7,000

※1 万口当たりの実績です。

■ 基準価額と純資産総額

	当月末	前月末	前月末比
基準価額 (円)	10,148	10,253	-105
純資産総額 (百万円)	1,145	1,102	+44

※ 月中に分配があった場合の基準日の基準価額は、分配金込みです。

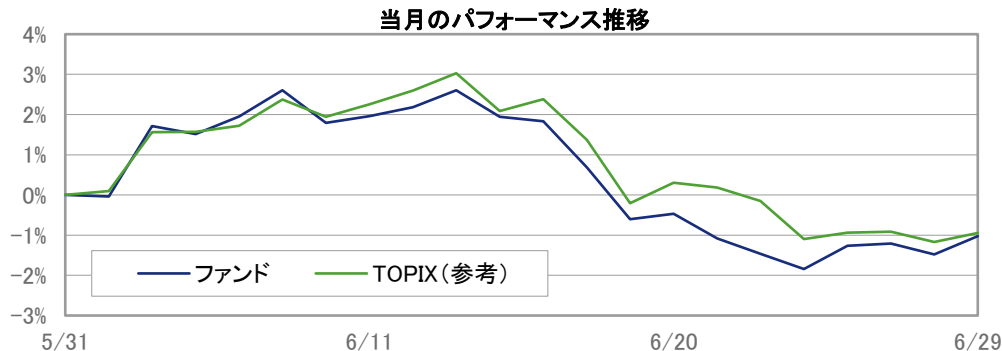
	基準価額 (円)	日付
設定来高値	12,920	2015年6月1日
設定来安値	5,630	2008年10月27日

※1 基準価額は信託報酬等控除後で算出されます。
※2 設定来高値及び設定来安値は分配落ち後の基準価額で、該当した日付が複数日ある場合には、その初日を表示しております。

■ 運用概況

当月末の基準価額は、10,148円(前月比-105円)となりました。
また、税引き前分配金を再投資した場合の月間騰落率は-1.02%となり、参考指数のTOPIXの月間騰落率は-0.95%となりました。

6月の市場動向と運用状況



<ご参考> 予想配当利回り

ファンド	TOPIX(参考)
3.52%	2.24%

※ 上記の予想配当利回りは、個別の銘柄の予想配当利回りを、保有資産のウェイトで加重平均したものです。(各種データを基に当社が作成)

※ 上記のグラフは過去のものであり、将来の運用成果を保証するものではありません。

市場動向

6月の日本株式市場は下落しました。上旬にかけては、米国、欧州の金融政策イベントや米朝首脳会談を波乱なく通過し、円安傾向も好感される形で、上昇基調となりました。中旬以降は、米中貿易摩擦への懸念が世界的に波及し、投資家のリスク回避姿勢が強まったことから下落基調に転じ、月末のTOPIXは1,730.89ポイントとなりました。

業種別では、下旬にかけて原油価格が上昇したことや業界再編期待を背景に石油・石炭製品が上昇したほか、米中貿易摩擦問題に対する感応度が低い内需業種が上昇しました。一方、任天堂の株価下落が響いたその他製品、原油価格上昇によるコスト増加懸念が嫌気された空運業が下落しました。石油・石炭製品が上昇率1位となり、以下、水産・農林業、医薬品、サービス業、食料品が続きました。一方、その他製品が下落率1位となり、以下、空運業、金属製品、鉱業、海運業が続きました。

運用状況

月間の運用実績は、参考指数であるTOPIXの騰落率-0.95%に対して、当ファンドは-1.02%となり、TOPIXを下回るパフォーマンスとなりました。株式の組入比率は98.9%(月末)と高位な組み入れを継続しました。また、ファンドで保有している銘柄の予想平均配当利回りは3.5%で、TOPIXの2.2%と比べて高い水準としています。

参考指数であるTOPIXとのパフォーマンス比較では、日本たばこ産業(食料品)や昭和シェル石油(石油・石炭製品)、JXTGホールディングス(石油・石炭製品)やカシオ計算機(電気機器)などの銘柄を保有していたことや、任天堂(その他製品)を保有していなかったことなどが、主なプラス要因となりました。一方で、三菱ケミカルホールディングス(化学)やアマダホールディングス(機械)などの銘柄を保有していたこと、ソニー(電気機器)や村田製作所(電気機器)、第一三共(医薬品)などの銘柄を保有していなかったことが、主なマイナス要因となりました。業種の観点では、その他製品の銘柄を保有していなかったことなどがプラス寄与となりましたが、一方で、銀行業の銘柄を多く保有していたことなどはマイナス寄与となりました。

今後の市場見通しと運用方針

市場見通し

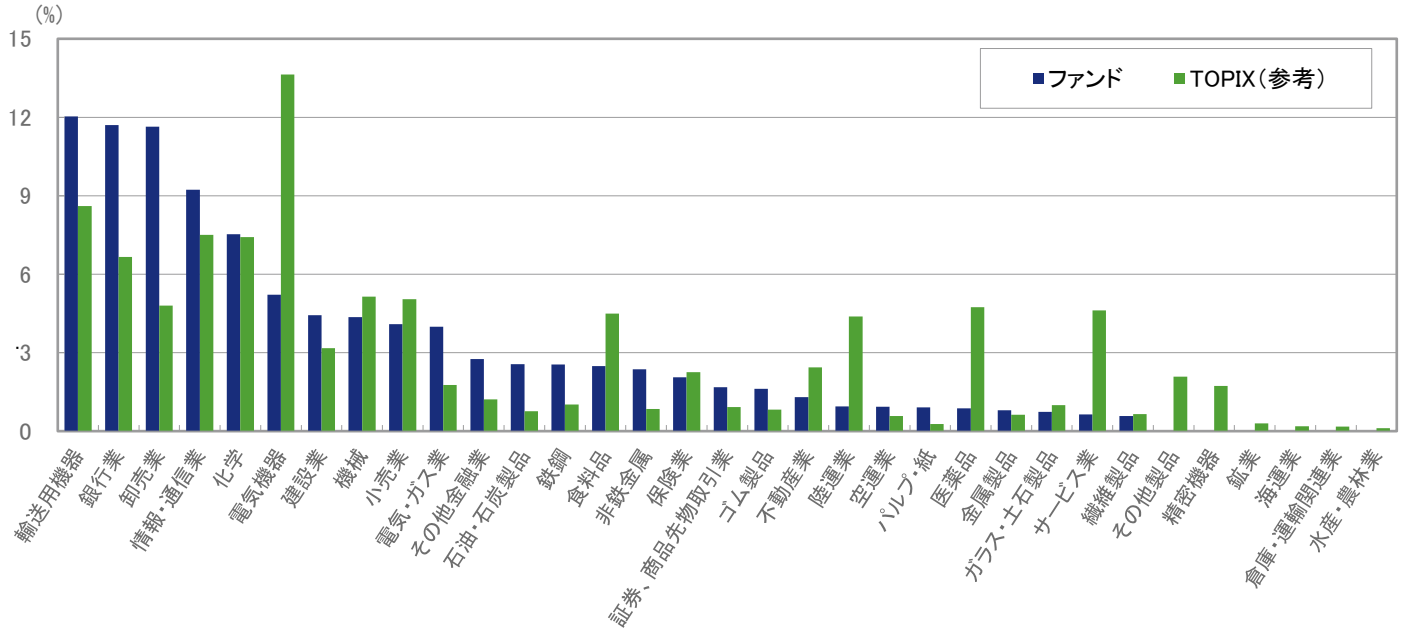
日本株について、会社発表での減益計画が目立つ中、企業の前提為替レートが足許の為替レートに対して円高水準にあることを踏まえれば、市場コンセンサスと会社計画の乖離は合理的な水準に留まっていると考えられます。不透明感を増す米通商政策に起因する価格変動率の高まりをリスクシナリオと見込みますが、回復傾向にある内閣支持率や割高感のないバリュエーション水準に鑑み、堅調な推移をメインシナリオとして想定します。

運用方針

当ファンドについては、国内の金融商品取引所に上場されている株式を主な投資対象とし、予想配当利回りが高いと判断される銘柄を中心に、株価の割安度等に注目して投資銘柄を選定します。具体的には、予想配当利回りが高いと判断される銘柄の中で、減配リスクが低く、増配余力が高い銘柄を選択します。同時に、企業の収益力、資産価値に着目したバリュエーションで割安な銘柄を選択します。また、個別銘柄の時価総額・流動性等を勘案したウェイトによりポートフォリオを構築し、適宜リバランスを行うことで、パフォーマンスの向上を目指します。

※運用担当者のコメントは6月末時点のものです。また、将来の市況環境の変動、正確性等を保証するものではありません。

■ 業種別組入比率



※1 業種分類は東証33分類に基づいています。
※2 比率は国内株式現物対比です。

■ 組入上位10銘柄

順位	銘柄	業種	組入比率(%)	予想配当利回り(%)
1	トヨタ自動車	輸送用機器	3.2	3.2
2	日本電信電話	情報・通信業	2.6	3.3
3	三菱UFJフィナンシャル・グループ	銀行業	2.5	3.2
4	本田技研工業	輸送用機器	2.5	3.6
5	日本たばこ産業	食料品	2.5	4.9
6	三井住友フィナンシャルグループ	銀行業	2.4	4.0
7	KDDI	情報・通信業	2.4	3.3
8	伊藤忠商事	卸売業	2.3	3.8
9	NTTドコモ	情報・通信業	2.3	3.8
10	三菱商事	卸売業	2.2	3.8

※比率は国内株式現物対比です。

組入銘柄総数:

94銘柄

■ 組入上位10業種

業種	比率(%)
輸送用機器	12.0
銀行業	11.7
卸売業	11.6
情報・通信業	9.2
化学	7.5
電気機器	5.2
建設業	4.4
機械	4.4
小売業	4.1
電気・ガス業	4.0
その他	25.8

■ 主な売買銘柄

	買付				売付			
	銘柄	株数	金額	平均単価	銘柄	株数	金額	平均単価
1	ヤマハ発動機	3,600	10,721	2,978	丹青社	6,900	10,265	1,488
2	LIXILグループ	4,100	9,348	2,280	奥村組	1,800	6,864	3,814
3	ライト工業	6,700	7,578	1,131	島忠	1,800	6,295	3,497
4	トヨタ自動車	500	3,685	7,370				
5	日本電信電話	500	2,575	5,150				
6	三井住友フィナンシャルグループ	500	2,247	4,494				
7	本田技研工業	600	2,071	3,452				
8	三菱UFJフィナンシャル・グループ	3,100	2,039	658				
9	三菱商事	600	1,866	3,110				
10	キヤノン	500	1,856	3,711				

※平均単価=金額÷株数

商品の特色

- 当ファンドは、わが国の金融商品取引所に上場されている銘柄を中心に投資を行います。
- 運用にあたっては、国内の株式を主要投資対象とし、配当利回りに着目した銘柄選定により、安定した配当収入の確保および株価の値上がり益の獲得を目指します。
- 原則として、年4回の分配を目指します。
- 株式の組入比率は原則として高位を保ちますので、基準価額は大きく変動することがあります。

■ お申込みメモ

- 購入 いつでもご購入いただけます。
- 購入単位 販売会社が定める単位
- 購入価額 購入申込日の基準価額
- 購入時手数料 購入申込日の基準価額に1.62%(税抜1.50%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。詳しくは、販売会社にお問い合わせください。
- 信託設定日 2008年3月3日
- 信託期間 無期限
- 信託報酬 純資産総額に対して年1.0368%(税抜0.96%)
- 決算日 年4回(1月、4月、7月、10月の各10日(各々休業日の場合は翌営業日))
- 収益分配 委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないこともあります。分配金は、原則として決算日から起算して5営業日目までに支払いを開始します。「分配金再投資(累積投資)コース」の場合は、収益分配金は税金を差し引いた後、自動的に無手数料で再投資されます。
- 換金 いつでも解約請求によってご換金いただけます。
- 換金単位 1口単位
- 換金価額 換金申込日の基準価額から信託財産留保額を差し引いた価額
- 信託財産留保額 換金申込日の基準価額に0.30%を乗じた額
- 換金代金の支払い 換金代金は原則として換金申込日から起算して5営業日目から支払いを行います。
- 税金 <個人のお客様の場合>
 - ・ 収益分配時の普通分配金については、配当所得として取り扱われ、課税されます。
 - ・ 換金時ならびに償還により交付を受ける金銭等は、譲渡所得とみなし、譲渡益に対し課税されます。
 <法人のお客様の場合>
 - ・ 収益分配時の普通分配金ならびに換金時および償還時の個別元本超過額に対し課税されます。
 ※ 税制が改正された場合等には、上記の内容が変更となることがあります。詳しくは、販売会社、税務署などへお問い合わせください。

金融商品取引所や外国金融商品市場における取引の停止、その他やむを得ない事情があるときには、ご購入申込みもしくはご換金申込みの受け付けを中止すること、およびすでに受け付けたご購入申込みもしくはご換金申込みを取り消す場合があります。

■ 委託会社、その他の関係法

- 委託会社 : 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第372号 一般社団法人 投資信託協会会員/一般社団法人 日本投資顧問業協会会員) 信託財産の運用指図、目論見書および運用報告書の作成等を行います。
- 受託会社 : 三井住友信託銀行株式会社(再信託受託会社:日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社) 追加信託に係る振替機関への通知等、信託財産の保管・管理・計算等を行います。
- 販売会社 : 以下をご覧ください。 ファンドの募集の取扱い・販売、目論見書・運用報告書の交付、一部解約の請求の受付、収益分配金、償還金および一部解約金の支払い等を行います。

販売会社等につきましては、以下の照会先までお問い合わせください。

- 農林中金全共連アセットマネジメント株式会社
- ホームページ: <http://www.ja-asset.co.jp/>
- フリーダイヤル: 0120-439-244(受付時間: 営業日の午前9時~午後5時)

お申込、投資信託説明書(交付目論見書)のご提供は

主なリスクと手数料

下記の事項は、この投資信託(以下「当ファンド」という。)をお申込みされる投資家の皆様にあらかじめ、ご確認いただきたい重要な事項としてお知らせするものです。

お申込みの際には、下記の事項および投資信託説明書(交付目論見書)の内容をよくお読みください。

■ 当ファンドに係るリスクについて

当ファンドは、主にわが国の株式を投資対象としますので、国内株式の下落による組入株式の価格の下落や、組入株式の発行会社の倒産や財務状況の悪化等の影響により、基準価額が下落し、損失を被ることがあります。

したがって、投資家の皆様の投資元金は保証されているものではなく、基準価額の下落により、損失を被り、投資元金が割り込むことがあります。当ファンドの基準価額の変動要因としては、主に「株価変動リスク」です。

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「投資リスク」をご覧ください。

■ 当ファンドに係る手数料等について

■ 申込手数料(1口当たり)・・・申込時にご負担いただくものです。

お申込日の基準価額に1.62%(税抜1.50%)以内で販売会社が独自に定める率を乗じて得た額とします。

※詳しくは販売会社もしくは申込手数料を記載した書面にてご確認ください。

■ 換金(解約)手数料・・・換金時にご負担いただくものです。

ありません。

■ 信託報酬・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。

ファンドの純資産総額に年1.0368%(税抜年0.96%)の率を乗じて得た額とします。

■ 信託財産留保額(1口当たり)・・・換金時にご負担いただくものです。

換金申込受付日の基準価額に0.30%の率を乗じて得た額とします。

■ 監査費用・・・保有期間中に間接的にご負担いただくものです。

ファンドの純資産総額に年0.00324%(税抜年0.003%)の率を乗じて得た額とします。

■ その他の費用(*)

有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引、オプション取引等に要する費用、外国における資産の保管時に要する費用、

信託事務の処理に要する諸費用、信託財産に関する租税、受託者の立て替えた立替金の利息、資金借入れを行った場合の借入金利息

※詳しくは投資信託説明書(交付目論見書)の「費用と税金」をご覧ください。

(*)「その他の費用」については、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を表示することができません。

当該手数料等の合計額については、投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

留意事項

■ 当資料は、農林中金全共連アセットマネジメント株式会社(以下、「当社」といいます。)が作成した販売用資料であり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。

■ 当資料は当社が信頼できると判断したデータ等により作成しましたが、その正確性、完全性等を保証するものではなく、また事前の通知なしに内容を変更する場合があります。市場環境等の見直しにつきましても、その確実性を保証するものではありません。また、将来の運用成果を保証するものでもありません。

■ 当ファンドは、株式などの値動きの生じる証券に投資しますので、基準価額は日々変動します。したがって、元金および収益分配が保証されるものではなく、投資元本を割り込むことがあります。また、運用の成果は運用の実績により変動します。投資した資産の価値の減少を含むリスクは、投資信託をご購入のお客様に負っていただくこととなります。

■ 投資信託は預貯金や保険商品とは異なり、預金(貯金)保険機構、保険契約者保護機構の保護対象ではありません。投資信託のお申込みに関しては、クーリングオフの適用はありません。

■ ご購入の際は、販売会社より投資信託説明書(交付目論見書)をお渡しますので、必ずお受取りいただき、詳細をご確認のうえ、ご自身でご判断いただきますようお願いいたします。

■ 東証株価指数(TOPIX)に関する著作権、知的財産、その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。また、東京証券取引所は同指数の内容を変える権利および公表を停止する権利を有しています。